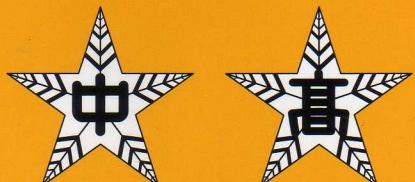
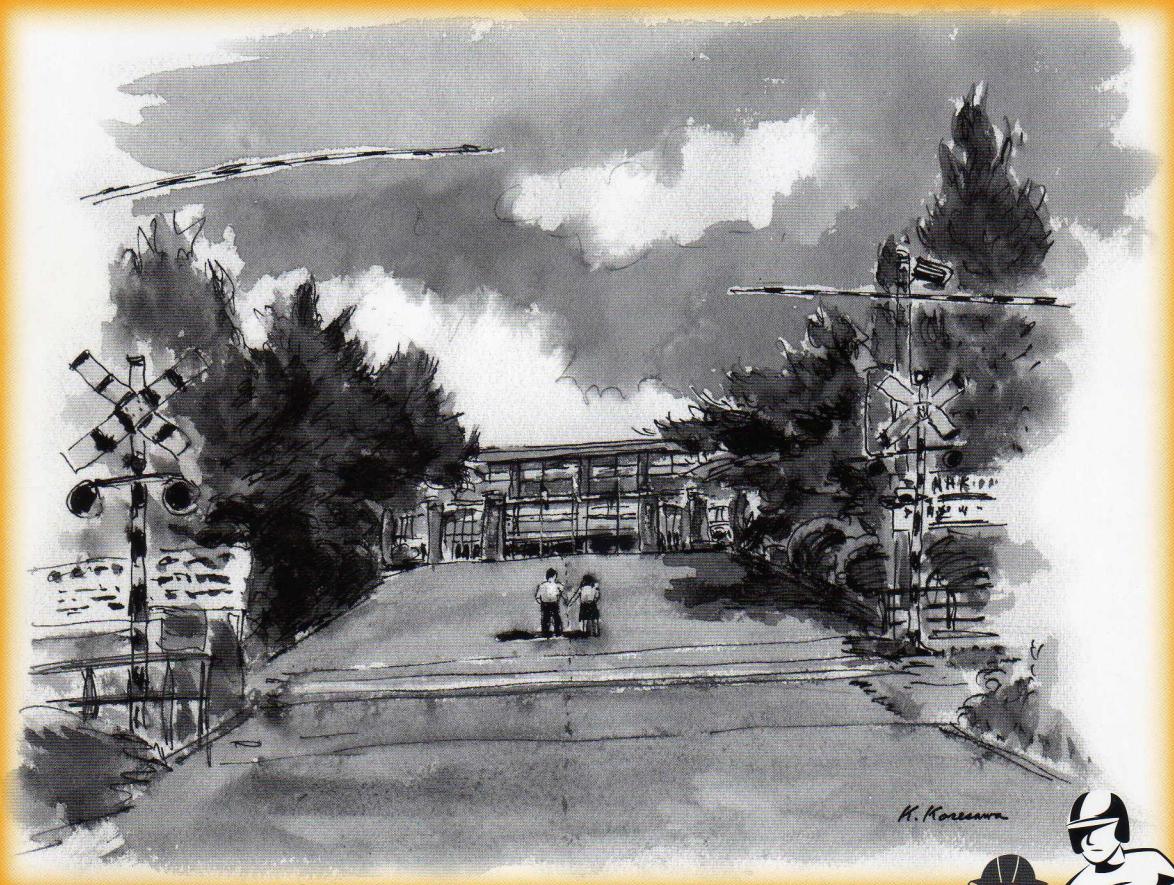


おかえり! 母校に凱旋



平成25年度

岳陽同窓会総会記念誌

当番幹事:高校33回・49回



目
次

目次／式次第	2	恩師の思い出	34
校歌／田川健児の歌	4	恩師 玉嶋 敏一先生	
スローガンは「おかえり！母校に凱旋」	5	恩師 秋満 英一先生	
寄稿文	6	恩師 小川 克己先生	
岳陽同窓会会长 吉田 正見	6	同級生たちの思い出	37
田川高等学校校長 立石 研一	5	末廣 昌英	
奨学会会長 八田 彰	4	八谷真理子（旧姓 宮本）	
実行委員あいさつ	9	各回卒業生数一覧表	
実行委員長 神崎 聰（高校33回生）	9	ご協賛広告	
代表幹事 津島 潔（高校33回生）	12	協賛広告目次	
副実行委員長 中村 成也（高校49回生）	12	147 41 39	
記念講演 「水平線上に突起をつくれ」私の嶽南魂	12		
講演者 神崎 聰氏	21		
記念講演 「経営の神様」松下幸之助の言葉	21		
講演者 荒田 英知氏	32		
総会への道			



式
次
第

総会

6号議案 新副会長 西村 隆介氏（高23回）
就任 8月24日 幹事総会により承認

- 1 校旗入場
- 2 開会のことば
- 3 校歌斎唱
- 4 物故者追悼
- 5 同窓会 会長挨拶
- 6 同窓会 名誉会長挨拶
- 7 獎学会 会長挨拶
- 8 来賓紹介および挨拶
- 9 祝電披露
- 10 議長選出（紹介） 畑 博文氏（高23回）
- 11 議事

1号議案

平成24年度事業ならびに業務報告

2号議案

平成24年度決算報告

3号議案

平成25年度事業計画

4号議案

平成25年度予算

平成26年度より80歳以上

総会会員券購入について

（現在80歳以上は会員券割り当てなし

無料招待→26年度より会員券割り当てなし 出席者は有料とする）

懇親会

- 1 開会のことば
- 2 乾杯
- 3 アトラクション
 - ① 田川創作炭坑節
 - ② DVD放映
- 4 県大会決勝、甲子園（対秋田商）
- 5 田川健児の歌
- 6 万歳三唱
- 7 閉会のことば

- 1 開会のことば
- 2 乾杯
- 3 アトラクション
 - ① 田川創作炭坑節
 - ② DVD放映
- 4 県大会決勝、甲子園（対秋田商）
- 5 田川健児の歌
- 6 万歳三唱
- 7 閉会のことば



校

歌

作詞 皆川治
作曲 横田三郎

田川健児の歌

作詞 田中常憲
作曲 権藤円立

一、南の空玲瓈と わが搖籃の地に聳え

蒼鷹はるか夢に飛ぶ 奇靈の日子の精受けて

理想を高く掲げたる 光栄の日を歌ふかな

二、天そりたつ香春嶽 始原の海のあと遠く

若草萌ゆる国原に 二八の春の意氣高し

明日翱翔の翼並め 鵬われらつどひたり

三、風梅檀の香を送り 蒼穹深く澄むところ

光芒汎ゆる学び舎に わかきうから目の目に磨く

覬智の光おごそかに 道炳としてかかりたり

四、吾らは若き理想の子 まことにふるる胸は鳴る

八荒照らす大八洲 光は遠く天垂らす

國の固めとゆるぎなき 生命の光栄を歌ふかな

一、北九州の天高く そそるや英彦巍峨として
近く香春も聳えたり 山靈凝りて人となり
ここに獅子吼す一千の 田川健児の声を聞け

二、中津原頭春半ば 読書の窓に桜散る

花に犠牲の香あり 鷹羽の流れ秋深み

紅葉浮かべて瀬を下る 水に努力の叫びあり

三、北斗の星を仰ぎつつ 忍耐剛毅の戟とりて

一致の歩み堂々と 進む前途に敵ぞなき

来れ万嶽何かせん 寄せよ怒涛も何のその

四、思えば十五血は踊る 筑紫の限り従へし

鎮西八郎為朝が 居城はこそ此の処

昔の迹を辿りつつ 共に学ばん励まなん





おかえり! 母校に凱旋



水平線上に突起をつくれ

おかえり!! 母校に凱旋

毎年必ずやって来る、あの日がまたやってきました。

3年間一度もクラスメイトにならず、部活でも一緒にならなかつた子も、なぜか気があつていいつも一緒にいた子も、みんなあの時を思い出し、何とか今日 1 日力を合わせて乗り切ろうとしています。

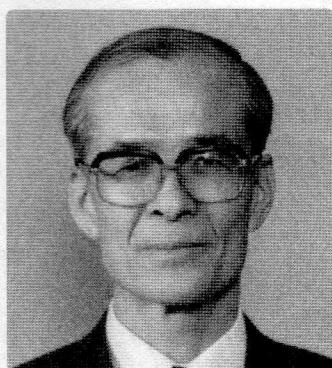
あの頃と見た目の変わった私たちですが、よくよく観察していただくと、どこか面影があるのではないでしょうか。

皆、なにかしら水平線上に突起をつくろうとがんばっています。

各期の皆様、「おかえり！母校に凱旋」をスローガンに大いにあの日、あの頃を懐かしみ、ひと時をお楽しみください。

本日はありがとうございます。

高校33回生 実行委員会役員一同



平成25年度 総会を迎えて

吉田 正見
岳陽同窓会会長

英彦山から大坂山に連なる山々に秋の気配を感じる今日の良き日、平成二十五年度の岳陽同窓会総会が歴代校長先生、恩師の先生をはじめ来賓各位のご臨席を賜りこのように盛会に行われますことは大変有り難く慶びとするところであります。ご臨席賜りました来賓各位に厚く御礼申し上げます。また、本総会に元気に集まられた会員各位に心から敬意を表するところであります。

さて、今年度の総会当番期高校三十三回生は昭和五十五年の夏に田川高校が甲子園大会に出場した時の三年生であります。津島潔代表幹事、神崎聰実行委員長を中心に副当番期の高校四十九回生と共に「おかえり! 母校へ凱旋」をテーマに準備を進めてまいりました。当番期・副当番期の皆さん有り難うございました。

早いもので母校野球部が甲子園大会に出場してから三十三年が過ぎました。今年、来年、再来年の当番期は野球部が勝ち進む毎にバスを連ねて球場に駆けつけ、進野貴良応援団長を中心と暑い日差しの中で声を振り絞つて応援し、選手と共に甲子園出場を決め歓びに沸いた思い出を持つ当時の在校生であります。野球部員、生徒会役員、応援団リーダー、ブラスバンド部員で頑張った人、スタンンドで肩を組んで応援した人、それぞれに思い出があろうと思ひます。

甲子園大会への出場が決まつてからの応援練習は一層熱のこもつたものになり、「校歌」「田川健児の歌」「ダッショ

田川」「コンバットマーチ」「ダイナマイトマーチ」などを繰り返し練習しました。これらの応援歌を覚えておられますか。そして炭坑節発祥の地である田川を全国の人に知つてもらおうと炭坑節保存会の方々から全校生徒に指導していただきました。甲子園のスタンドで「月が出た出た、月が出た・・・」と踊つたことが思い出されます。甲子園に生徒応援団を送るに当たり、学校は「一、野球部を応援することは勿論であるが、この機会を全校生徒にとつて教育的に意義あるものにする。二、自分たちを育んでもくれた田川、広くは筑豊という郷土に誇りを持ち、郷土のイメージアップに努める。」という方針を立て取り組みを行いました。生徒会は松尾秀俊生徒会長を中心に各バース毎に責任者、点呼係、保健係、清掃係などを分担し、応援組織の中核となり嶽南魂で頑張りました。男女ともに制服で男子は制帽を女子は自ら帽子をかぶつての整然とした応援でした。全国各地から駆けつけた同窓生や地元の方々の協力もあって生徒を中心とした全体会が一体となつた応援が出来たことは「やる時はやる」という我が郷土の川筋気質から思ひます。加えて、県予選から実施してきた試合終了後のスタンンドの清掃などのマナーの良さは高い評価を得て、マスコミの取材を受けたことも思い出されます。この年は空手道同好会、陸上部の小野山大寿選手も全国大会に出場するなど大い

に学年全体として大学進学など好結果を出しました。田川は旧制中学以来の勉学と共にマラソン大会や大坂山登山などの諸行事を通して心身を鍛えて質実剛健・文武両道の校風を有しており、皆さん達の期はこの校風を受け継ぎ実践した学年であつたと思います。まさに三十三回生を始め当時の在校生は文武両道で頑張り田川高校の歴史に大きな突起をつくつたと思ひます。私も丁度この時期に母校教員として勤務していく、応援団の責任者として関わり、皆さんと一緒に燃え、歓喜することが出来たことを嬉しく思ひ感謝しているところです。

母校は四年後に創立一〇〇周年を迎えることになります。同窓会本部としては創立記念事業などを通じて田川高校が更に発展するように支援したいと考えています。終わりになりましたが、田川高等学校並びに岳陽同窓会の更なる発展と会員各位のご健勝とご活躍を心から祈念してご挨拶とさせていただき



ご挨拶

田川高等学校校長 立石 研一

平成二十五年度岳陽同窓会総会の開催を心よりお祝い申し上げますとともに、一言のお礼・ご挨拶をさせていただきます。

岳陽同窓会の皆様におかれましては、平素から田川高等学校の教育活動につきまして、物心両面にわたるご支援・ご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

田川高校は庭園の緑と風格ある大樹、そして歌い継がれている格調高い校歌、また他校には見られない独特の示唆に富む校訓など、素晴らしい歴史と伝統を受け継ぎ今日に至っています。何より、校歌を高らかに歌い、礼節を重んじつも明朗で闊達な生徒の姿にはまさに伝統校という言葉がふさわしい学校であるとの思いを深めているところです。

ご承知の通り田川高校は大正六年に「田川郡立田川中学校」として創立され、平成二十五年の今年は創立以来九十六年を数えます。そして四年後の西暦二〇一七年（平成二十九年）にはいよいよ創立百周年を迎えます。この記念すべき節目にむけて昨年度より、吉田正見同窓会長を中心、同窓会役員の皆様、PTA役員の皆様そして、学校を加えた三者で百周年準備委員会を進め、本年も六月に、本年度第一回目の準備委員会を行いました。特に本校創立百周年事業にあたりましては、同窓会の皆様のご理解・ご協力を紹介するため、ホームページの更新を心がけています。また、本校の諸活動を紹介する広報誌「田川高校へ行こう」は、年間六回の発行を予定し、毎

が大変盛り上がり、地域の方にいすれば多く来校して頂く中で、成功裡に終了することが出来ました。また今年から、朝の補講後に実施している朝読書も好評です。生徒は毎朝落ち着いた雰囲気の中で、一日のスタートを切っています。さらに、部活動も、陸上部のインターハイ出場を筆頭に、どの部活動も前年度の成績を超えるべく頑張っています。部活動生の活動にもご期待下さい。

さて、現在田川地区ではかなりの数の中学生が卒業と同時に田川地区外の高校に進学するという状況が続いている。その原因は様々だと思いますが、まず本校としては、この流れを引き戻すことが必要と考えます。そのための一助として、本年度は広報活動の充実を重点目標の一つに掲げました。その一環として一学期の六月十二～十四日の三日間と八月の十九日～二十三日（二十一日は除く）の四日間オーブンスクールを開催しました。特に八月のオーブンスクールでは中学校も夏休みということで、四日間で百四十名を超える中学生や保護者の皆さんに来校していただき、真剣な夏季の補講や熱氣あふれる部活動を参観していただきました。

同様に教育活動のシーンをより多面的に発信するため、ホームページの更新を心がけています。また、本校の諸活動を紹介する広報誌「田川高校へ行こう」は、年間六回の発行を予定し、毎

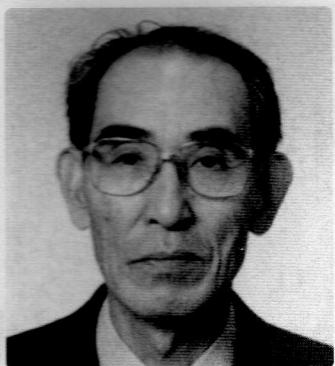
号田川地区の全ての小・中学校と、市郡内いくつかの公共施設に置かせていただいています。この広報活動の効果でどうか、おかげ様で今年の体育大会は例年以上の来校者がありました。中でも中学生の皆さんの姿が特に多く見られました。中学生たちの目には田川健児の滝壺とした姿があこがれの的として映つたものと思われます。

しかしながら田川高校は、地域の伝統校という位置に甘んじることなく、より魅力ある学校として、地域に信頼される学校を目指した自己変革の必要性が不可欠です。そして、しっかりとした生活指導と熱意のある教科指導が学校の基礎・基盤だと考えています。子ども教師自身の意識変革や授業研究、生徒と教師の信頼関係の深化、地域や保護者との連携を強化しつつ、地域の子どもたちが「田川高校で勉強したい」と思い、地域や保護者の皆様が「子どもを是非田川高校に進学させたい」と今後も思つていただける学校づくりに努力する所存です。そしてこの目標達成のためには岳陽同窓会のご支援・ご協力が欠かせません。同窓会の皆様におかれましては今後一層田川高校を強力にサポートして頂ければ幸いです。

結びにあたり、岳陽同窓会の今後ますますのご発展を御祈念申しあげ、また同窓会の皆様の、母校へのご支援・ご協力ををお願い致しましてご挨拶とさせていただきます。



感謝の思いと回想



八田 彰
奨学会会長

岳陽会総会開催の任に当たられる高校三十三回と四十九回生のみなさんは心から感謝致し、実行委員会の立ち上げから経費の工面、また総会時の催事の企画など幾多の難題を克服された強い絆に絶大な敬意を表します。

委員長から奨学会に原稿依頼がありましたが、在校生の諸活動を支援するため奨学会が運用している基金については昨年の記念誌に寄稿しましたので省略し、昭和五十五、六年当時の思い出を誌るします。

今回、みなさんが発揮した団結力やリーダーシップ（私が言うリーダーシップとは、全員が問題解決に発揮すべき態度のことです。）を培つたのは、夏の甲子園大会に出場したあの「熱気」だったと言つても過言ではありません。

応援団もなければバスケットボールもなかつた当時、急遽メンバーを募り結成して練習。試合当日、炎天下のアルプススタンドから秩序整然と大声援を送ったのが昨日のようになります。

あの頃の授業は大学入試を念頭に

味も素つ氣もない、ただ要領よく解答をする方法を教えられていました。教材を通して人生を豊かにするとか、思考・思索を深めと言えば、友達に会えることと部活動をすることだったでしょう。

しかし、部活動に熱中のあまり定期考査で赤点（欠点）を取りどもすれば、保護者と担任が一緒になつて退部をさせようとする風潮がありました。そんな中で野球部は甲子園へ、陸上部の小野山選手（現母校教諭）は全国大会へ、書道部や放送部も素晴らしい成果を上げていました。在学時代の並々ならぬ努力の結果が、一人ひとりの今 のバイタリティを形成したと思ひます。私事ですが、田川高校で私が関わった部活動は野球部と山岳部でした。私より前にこの部を指導された野球の後明先生、山岳の成瀬先生ご両人がご健在な内に、部の「秘話」なるものをお願いして将来に残して置きたいと思つています。その折には部員として活

動した方々にはご理解していただき、どんなことを書かれようともご寛恕のうえ、ご協力をお願ひします。

残念ながら紙数に限りがありますので最後に一言。みなさんも「命」の齢となっています。「民生常にあること鮮し」と陶淵明の詩にあります。一生青春とは叶いませんが一生勉強を怠らず、悠然たる人生を送られることを願つています。

母校教諭）は全国大会へ、書道部や放送部も素晴らしい成果を上げていました。在学時代の並々ならぬ努力の結果が、一人ひとりの今のバイタリティを形成したと思ひます。私事ですが、田川高校で私が関わった部活動は野球部と山岳部でした。私より前にこの部を指導された野球の後明先生、山岳の成瀬先生ご両人がご健在な内に、部の「秘話」なるものをお願いして将来に残して置きたいと思つています。その折には部員として活



おかえり! 母校に凱旋

平成25年度 岳陽同窓会実行委員 ごあいさつ

本日は、岳陽同窓会総会そして懇親会に多くの皆様のご参集のもとで開催できましたこと、本当にありがとうございました。また、記念誌広告・看板そして在校生のためのご寄付にご賛同を頂きましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

本年度、当番期の33回生は、甲子園出場を果たした学年であります。スローガンを「おかえり! 母校に凱旋」と致しましたのは、甲子園から帰った時に、当時の岳陽同窓会の皆さん、地元田川の皆さんから送つて



(昭和56年当時)



実行委員長
神崎 聰

もらつた言葉であります。今度は、私たちが皆さんをお迎えし、精一杯のおもてなしができるようという想いで、このスローガンを掲げました。母校田川高校への感謝の気持ちと、同窓生が恩師、先輩、同期、後輩といった田川高校を通じてご縁を持った方々と同窓会総会で再び逢つて、田川高校時代を懐かしみながら、良き時間を過ごして頂ければと思つています。

実行委員長という大役を担わせて頂き、改めて、歴史ある岳陽会の素晴らしい、同窓生そして同級生の有り難さに、感謝せねばという気持ちでいっぱいになつていています。高校時代というのは、人生の中では、一瞬の時間であり、たかが3年間にしか過ぎません。でも私は、されど3年間だと思います。小学校、中学校、高校、大学と様々な同窓会がありましたが、高校時代の同窓会が、こんなにも盛大にかつ思い入れと絆が強いのはどうしてなのか。やはり、多感な青春時代を故郷田川で過ごし、青春を謳歌したからこそだと思うんです。

当番期として、在校生への講演をする機会も頂きました。校訓である“水平線上に突起をつくれ”という題目でしたが、自分自身を振り返る機会にもなりました。また、在校生のために私にできることはないかといふ想いで、麻生太郎先生にビデオレターのお願いをし、快く引き受けて頂きました。本当に有り難いことだと感謝致しております。本年度当番期として、多くの皆さんにご支援・ご指導を頂いたことに感謝致しますとともに、何かと行き届きの点があつたことをお詫び申し上げます。

最後になりますが、岳陽会同窓会並びに同窓生のご発展とご活躍・ご健勝を祈念申し上げるとともに、福岡県立田川高等学校のさらなる飛躍を心から祈念申し上げ、実行委員長の挨拶の言葉と致します。本日は誠にありがとうございました。



平成25年度 岳陽同窓会実行委員 ごあいさつ

本日は平成二十五年度岳陽同窓会総会に同窓生の皆様多数お集まり頂きまして誠にありがとうございます。並びに、記念誌の広告、看板にご協賛頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

昨年から折に触れ、我々の期のスローガンである”おかえり！母校へ凱旋“の言葉の意味を同窓生の皆様にお伝えしてきましたが、私個人としては、甲子園出場時の野球部メンバーとして、昭和五十五年八月二日 福岡県予

おかえり！ 母校へ凱旋



(昭和56年当時)



代表幹事
津島 潔

さて、我々三十三回は、諸先輩からのご助言を得て、なるべく早く取りかかると、本当番の三年前から隨時準備を進め、昨年度の総会終了後から本格的に動き始めました。当初は思った程人数が集まらず、特に記念誌の広告集めには、昼の時間に動けるメンバーが少なく大変苦労しました。又、”甲子園組“と廻りの皆様からの期待も高

く、プレッシャーも半端なく大きなものでした。しかしながら、さすがにあの暑い甲子園で、共に汗を流し、力の限り応援した同期です。最後一ヶ月の集中力には敬意を表します。

延べ四十回に近い実行委員会を開催し、総会が近づくにつれ、新しい顔ぶれが増えていき、喧々頗々議論も白熱しヒートアップした事もありましたが、さすが同期、落ち着くとここに落ち着き今日に至りました。

選決勝で嘉穂高校との激戦に勝利し、北九州市小倉球場から、文字通り”田川へ凱旋“した事を思い出します。本日は同期野球部メンバーと共に総会へ出席し、その当時同窓会の皆様から頂いたご厚情に改めて感謝させて頂いたいと思います。

さて、我ら三十三回は、當番期を終えて、はじめて一人前の同窓生になるのだと聞かされて居りました。本日やつと”同窓生として嶽南健児“になれたな

が、一生一度の當番期が、忘れない大変良い思い出になりました。當番期を終えた先輩方々から、當番期を終えて、大変忙しい本当番の一年間でした

が、なんに会えなくなる事に少し寂しさを感じております。

最後になりましたが、皆様の心温まるご指導、ご鞭撻、ご支援に感謝しつつ、当番同期三十三回及び副當番期四十九回一同、心より御礼申し上げます。

本日は、”母校への凱旋“大変ありがとうございました。又、来年、元気で”

凱旋“頂ける事を祈念申し上げ御礼の挨拶と致します。



平成25年度 岳陽同窓会実行委員 ごあいさつ

平成25年度岳陽同窓会総会へお越し
いただきありがとうございます。

本年度副当番を務めます、高校49回
卒の中村成也と申します。

我々は平成6年4月に本校に入学、
現在は立派になっていますが、当時、
吉めかしい講堂がまだ残っていた頃で
あり、入学後のオリエンテーションを
受けた記憶があります。「大学受験へ向
けて今日から早速スタートだ!」との
説明に、「氣を引き締めて3年間を過ご
さなきやな」と感じたものでした。と
は言え、田川市郡内の広範囲に友人も
でき、生徒会活動にもどっぷりとはまつ
て、3年間は本当に自由を謳歌させて
頂きました。個人的には、3年生時に



(平成9年当時)

副実行委員長
中村 成也

生徒会長を拝命し、それまで文化部の展示が中心だった文化祭を、献血活動やクイズ選手権等、イベント要素を大きくプラスした「嶽南祭」としてリニューアルした事が最大の思い出です。生徒会メンバー、クラスの友人や後輩、放送部など「拡大生徒会（勝手に命名）」約50名で前日遅くまで準備をしたこと、今でも懐かしい思い出となつています。

卒業後は、地元田川市にある福岡県立大学に進学しましたが、高校時代に味わった生徒会活動の楽しさをそのまま引きずり、学生自治会活動や地域でのボランティア活動、お祭りのイベントスタッフなど、人の集まる場所での活動に没頭しました。我々は就職難等、いわゆる「ロストジェネレーション」と呼ばれた世代であり、社会に出る頃には、皆大変な思いを経験してきたことだと思いますが、そのメンバーが、卒業から16年を経て、この岳陽同窓会の副当番をやるから、との名目でこの度集まることになったのです。

最初は地元に残る数名で連絡を取り合ふことからスタート。久々に連絡を取る、しかも携帯やスマホに慣れた今は、思ひ返してみると、当時はポケベルを持つてゐるもの珍しい頃、当然個人の携帯電話番号を把握しているのもわずか。戸惑いながらも少しずつ増えていく同窓会の友人で人海戦術が始まりました。高校49回「翼陽会（よくようかい）」

「せっかくなんで、事前に一度集まつて飲もうや!」と田川市内で懇親行事を企画してみました。約50名ほどの参加ではありましたが、大半は卒業してから初めて会うような状態で、参加した同期からは「またやろう!」「今度は10月、連絡取れる人を誘つてまた来るね!」と喜んでもらえました。

人が集まる場を企画、運営するのは大変なことです。学生時代から経験をしてきたことで十分に理解しているつもりです。が、この岳陽同窓会は「同じ時代を同じ場所で過ごした同期」が一堂に集う場、その「懐かしい友」と大勢で再会できる喜びは、他のイベントでは決して味わえないものだと感じたこと、これこそが今回の一番の収穫になりました。このような機会を設けて頂けたこと、本当に感謝申し上げます。

準備では、当番期である高校33回の先輩方に、いろいろとお手数、ご迷惑をおかけしましたが、さすが我が母校の歴史に名を刻んだ先輩方、グイグイと引っ張つて頂き、ここまで来ることができました。本当にありがとうございました。16年後には、先輩方の背中をお手本として当番を務めさせて頂きまことにあります! 本日の参加を楽しみにしてお集まりの皆様、短い時間ではありますがあ、一杯の心を込めて、おもてなしをさせていただきます。

高校49回「翼陽会（よくようかい）」をどうぞ宜しくお願ひ致します!



水平線上に 突起をつくれ

～私の嶽南魂～

福岡県議会議員 神崎 聰
(高33回)

2013.5.18(土) 平成25年度 岳陽同窓会記念講演会 於:県立田川高校80周年記念講堂

麻生太郎です。皆さんの先輩になるのかな、神崎県議員の方からメッセージを頂けないかと突然の電話がありまして、神崎県会議員との昔からの付き合いですから、私としては政治家として彼の将来に大きな期待を持っているから、こりや断れんと思つて、このビデオに出ることになりました。人と人との付き合い、或いは最近の言葉で絆ともいうんでしようけども、そういうものです。

高校生の皆さんも、今の隣に座っている友達とか、そういつたこの学校の間につくられた人間関係、そういつたものは人生の中で、後で必ず役に立ちます。大切にしてもらえばいいなあと思いますけどね。

この記念講演会ですか、同窓会は、後輩のこれから的人生の指針になればという想いで開催されると聞きました。田川高校ならではという、そういつた伝統、取り組みではないかと思っているんです。そこには何となく、自分の出身である母校への誇りとか想いとか愛とか、そういつた学校でもある、或いは何だろうな、学んだことを誇りにして、人生のバネにすること、これもとても大切なことです。

人生ってみんな、何だろうなと思う人もいるかもしだれんけど、所詮、人生は自らが努力して、自らで自分で切り拓くもんです。誰の責任でもない。責任は自分にある。努力するやつには勝てんし、積み重ねつてい

うのは、すごく大事なもんで、継続ということを言わせてもらえたたら、自民党の総裁選挙に4回挑戦します。



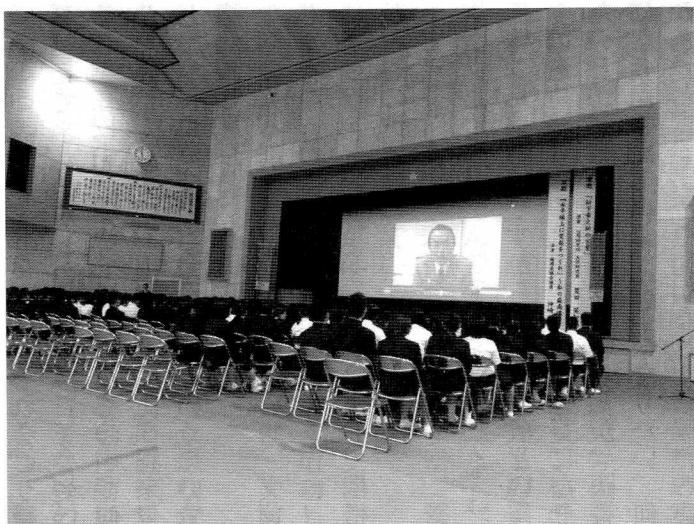
麻生太郎副総理兼財務大臣・金融担当大臣からのビデオレター



[http://youtu.be/
xz38Kc1J3Jw](http://youtu.be/xz38Kc1J3Jw)



水平線上に突起をつくれ ～私の嶽南魂～



した。4回よ。普通1回か、よくて2回。それで普通はそれ以上やる人はいません。私は4回目に初めて勝てて、まあ結果として内閣総理大臣に就任しました。なぜ4回もやるんですか。という考え方もあるでしょうけど、私は政治家になるのは目的じゃなくて、政治家になるのは手段だと思ってい るんです。目的は、自分の生まれた郷土とか、国をさらに発展させたい。繁栄させたい。そのために頑張りたい。そういう想いが人より多分強かつたのかもしれません。しかし、そうした想いとか気持ちを持ち続

け、自分の気持ちの中に、そして努力したことだと思います。もちろん、今でも、今、財務大臣しますけど、この国がもう一回、繁栄を自信を誇りを取り戻すために、何を為すべきかと思って、今までがつて、皆さんのに大きく開かれた未来がある。それだけは間違ひありません。期待しています。頑張って下さい。



<http://youtu.be/ogTaFMBxXTk>

だ努力を続けているところです。
さて、結論です。自らが自分で何を為すべきか、為すべきものは何か、これはじつ



「平成25年度岳陽同窓会記念講演会を終えて」
33回生の同級生から総会の実行委員長を頼まれ、同級生には常日頃から迷惑をかけているもんですから、是非もなく引き受けることになりました。すると今度は、記念講演会の講師をPHP研究所主席研究員の荒田英知君と二人でやつてくれという指令があり、全国で地域主権型道州制等をテーマとして全国で講演し活躍している荒田君の前座であればという事で講師を引き受けさせて頂きました。何を話そうかと考えましたが、やはり校訓である、”水平線上に突起をつくれ“をテーマに、自分のいくつかの経験を元に、”私の嶽南魂“という事で講演することにしました。

議員になる前はIT業界に身を置いておりました。それで企業時代の取り組みの中で、水平線上に突起をつくったと自負しています「教育の情報化推進事業」「セットトップボックス」「e-zukaトライバーレ構想」「企業誘致コールセンター」「e-d enpo事業」について、失敗や挫折・苦

くり考える。時には大いに悩むこともあるでしょう。悩まないで結論が出るなんて、そんな安易なものとかありませんから。ただ、これだけは言えます。皆さんには若い。したがって、皆さんのに大きく開かれた未来がある。それだけは間違ひありません。期待しています。頑張って下さい。

水平線上に突起をつくれ ～私の嶽南魂～

おかえり! 母校に凱旋



労話等のエピソードを交え、それをどう乗り越えてきたのかという内容にしました。それを在校生に聞いてもらい、その中で何かを感じてもらい、田川高校生に、将来少しでも役に立ててもらえばという想いで講演致しました。

話に入る前に、前段がありまして、プレゼン用意しましたので、youtubeにアップしておきます。QRコードで携帯からもご覧頂けます。

「田川高校生へ」

皆さんには若いですから、将来の夢というものを持っていると思います。社長になりたいとか、政治家を志しているとか、医者になりたい、スポーツ選手になりたい、何かあつと驚くような発明をしたい、いろいろあると思います。

夢のない人生ほど味気ないものはない、僕自身そう思っています。ただですねえ、皆さんが夢の実現に向かって一步一歩進んでいこうとすると、もしかすると、その夢とは関係のない努力をしなければならないことだつてあると思うんです。人の協力が必要な時は人を説得し、お金が必要な時はお金を稼ぐ。でも、夢と関係ないと思われるところに努力をするところが、とても大切なんですね。僕は、人が育つというのはこの努力するところにあると思います。言い換えま

すと、人が育つのは、夢を持つているからでありまして、夢の大きさによつて、人々また大きく成長していくんじゃないかとも思います。

でも、皆さんには私と同様に必ず失敗します。挫折します。くじけて、泣いて、悔しい想いをして・・・自分じやどうしようも解決できない問題が、次から次へと、何度も何度も訪れるんです。

夢の大きさによつて人も大きく育つと言いましたが、実は、夢の大きさによつて失敗も大きくなつていきます。立ち直れないくらいふさぎ込んでしまうことがあるかもしれません。でも、大丈夫です。ここにおられる先生たちも、何回も失敗し続けていらっしゃるんです。校長先生も同じです。皆さんのお父さんやお母さんも、多分そうなんです。失敗のない人生を送っている人なんて、いらないと思います。まあ皆さん、年齢とともに失敗も試練も大きくなつてきますから、若い時の失敗なんていうのは大したことはありません。

僕の高校時代を振り返りますと僕が高校時代に将来なりたかつた職業は税理士でした。どうしてか?僕の伯父さんが税理士をしておりましてね、いつも海外旅行に出かけていました。税理士ってお金持ちなんだい生活が送れるんだと単純にそう思つていました。そこで大学は商学部を受験しました。結果

こうざき 聰

自己紹介

こうざき 聰 ホームページ
<http://www.kouzakisatoshi.com>

こうざき 聰

職歴

こうざき 聰 ホームページ
<http://www.kouzakisatoshi.com>

昭和37年9月20日生 50才

添田町立添田小・中学校卒業

昭和56年 福岡県立田川高等学校卒業

昭和60年 日本大学商学部会計学科卒業

昭和60年 麻生セメント株式会社入社

平成13年 株式会社麻生情報システム 社長

平成23年 福岡県議会議員初当選

平成10年 文科省・経済産業省、教育の情報化推進事業

平成12年 福岡県SOHO協議会 委員

平成13年 社団法人福岡県情報サービス産業協会 理事

平成15年 飯塚市トライバレー推進委員会 委員

平成15年 福岡県経済動向ネットワーク委員会 委員

平成16年 飯塚商工会議所 議員

平成17年 福岡県学力向上推進会議 委員(企業代表)

平成23年 福岡県議会議員



おかえり! 母校に凱旋

水平線上に突起をつくれ ～私の嶽南魂～

は1勝5敗で、1つだけ合格したのが日本大学商学部会計学科でした。大学に入りますと、すぐに公認会計士・税理士養成講座を受けました。簿記は何とか理解できなんですが、原価計算というのがありましてね、その原価計算の考え方があまりわからず、たった3ヶ月で挫折しました。会計の道を諦め、当時まだマイナーだったんですが、情報管理・コンピューターのゼミに入ることになつたんです。同時に、日本大学福岡県人会の活動を積極的にするようになりますが、3年生の時には福岡県人会の幹事長になり、先程見てもらいました通り、日本大学音楽祭の実行委員長を致しました。

それと、3年生の時に当時自民党幹事長で、皆さんの田川高校の先輩になり、私の親戚にもなるんですねが、田中六助先生の選挙をお手伝いしたんです。今思うとですね、ITも政治も大学時代から、何となく、繋がっていたんだと思います。

私の経験や結果だけ、こうやって見ておりますと、仕事も選挙も、何となく成功しているように見えるんですが、実は、失敗や挫折の連続だつたんです。ただですね、失敗しながらも、違うやり方を試したり、思い切って諦め、別の道を見つかり、ない知恵を絞り、それを行動に移してきたことが、良かったんじゃないのかなあと思います。責任が大きくなつてき

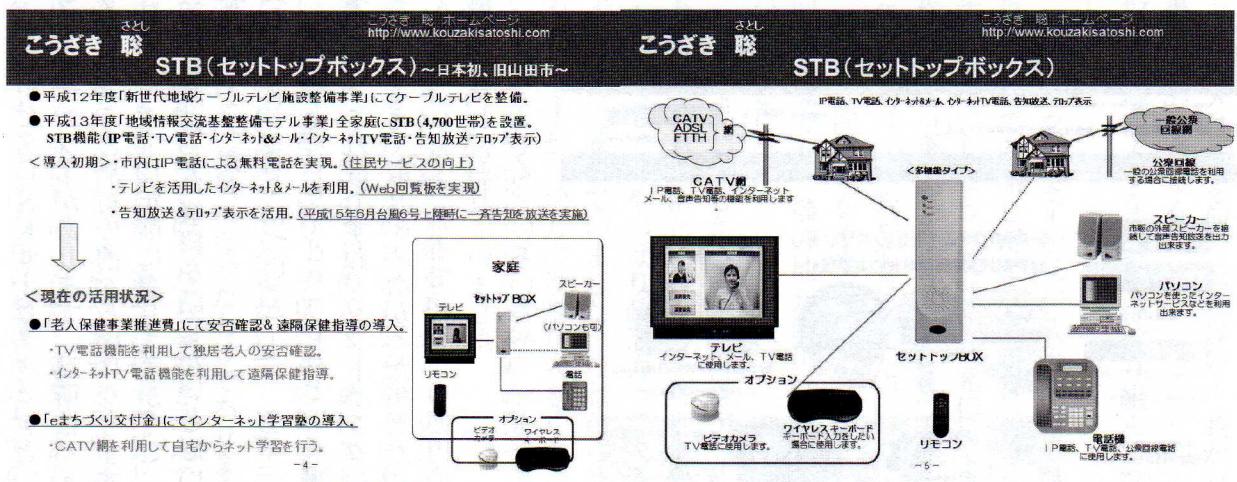
た役員・社長時代の頃、市町村の仕事をするようになりました。

(教育の情報化推進事業について)

情報教育においても、先程見てもらいましたように、平成2年に情報教育が指導要領に取り入れられてからずっと続けてきました。指導要領は10年ごとに見直されますが、平成12年の指導要領見直しに向けて平成10年から文部科学省・経済産業省のモデル事業として教育の情報化推進事業の公募案件がありました。これに採択され、全国に先駆けてここ田川郡で実証実験に取り組んだのですが、この教育の情報化推進事業の話をしたいと思います。

(セットトップボックスについて)

次は、STB・セットトップボックスについて話をしたいと思います。これはテレビに接続してインターネットや様々なサービスが受けられる端末なんですが、日本で初めて、街ごとブロードバンドに取り組んだ事業です。



水平線上に突起をつくれ ～私の嶽南魂～

おかえり! 母校に凱旋



きたのか、そんな心もとない事を言う人がいたんですから、飯塚市に働きかけましてね、それだったら学園都市じやなく情報産業都市を目指しましょう。

こうざき 聰

e-zukaトライバレー構想

こうざき 聰

e-zukaトライバレーセンター

こうざき 聰

データセンター

こうざき 聰

サービスウェア九州誘致

こうざき 聰

e-denpo 電報ビジネスモデル

こうざき 聰

サービスウェア九州誘致

こうざき 聰

e-denpo 電報ビジネスモデル

受け皿の企業がないんだつたら、自分たちで起業家し、ベンチャーの育成、日本一創業しやすい街づくりを創りましょう。と話を持ちかけましてね、産学官連携のe-zukaトライバレー委員会を立ち上げました。トライバレーというのは、トライする・チャレンジする。アジアに向けて渡来する。海の向こうから渡って来るという意味です。産・学・官の3つのトライアングルから取りまして、案件創出・人材育成・ベンチャー支援・产学連携と面白い事業を次から次へと仕掛けました。
(サービスウェア九州について)

(e-denpoについて)

香春町にSCSKサービスウェアというコールセンターがあります。場所はバイパスのちょうど島村の前ぐらいになりますけれども・・・12年前になりますか?こここの会社を誘致した経緯を話したいと思います。

次の事業は、e-denpoという事業ですが、これはですね、ソフトバンクの孫さんでさえ、取り組めなかつた事業だつたんです。NTTの独占で約600億円の市場規模だと言われていました。

こう見えて、いろいろやつてきましたんで

こうざき 聰

e-denpo 電報ビジネスモデル

こうざき 聰

e-denpo 低価格・即日配達の電報サービス



さとう こうざき 聰 福岡県議会の様子

最後になりますが私が政治を志したのは、今までお話をのように新しいことにチャレンジしよう。筑豊から発信しようと、福岡から日本を変えようと、From Fukuokaを合言葉に、頑張ってきました。

飯塚は間違なく変わっていましたが、同じ筑豊でも、僕の地元田川は何となくパア」としない。

今まで話しましたように僕自身が、仕事を街づくりも政治というものを身近で感じておりまして、やっぱり政治力って大きいよなあと実感していました。これからは国もそうですが、地方の役割が大きくなつてくる。それで政治への一步を踏み出そうと決断しました。

最初の選挙は、1年半をかけての選挙でしたが、13,508票という票をいただきながら、千票あまりの差で、負けてしまいました。やっぱり、失敗からの始まりでいました。やつぱり、失敗からの始まりでした。次の選挙まで4年かけて、通算5年半をかけて、議員になつたわけであります。

企業時代も多くの人たちを巻き込んで仕事をしてきましたが、選挙は仕事の比じやありませんでした。家族や親せき、地域住民の皆さんをはじめ、行政、企業、あらゆる団体、すべての人たちを巻き込んでの戦



<http://kouzakisatoshi.fc2-rentalserver.com/hpgen/HPB/files/chukouikan.mp3>

世の人は我を何と云えばいえ我が為す事はのみぞ知る。

坂本龍馬のような気持ちで取り組んできました。

最後になりますが私が政治を志したのは、今までお話をのように新しいことにチャレンジしよう。筑豊から発信しようと、福岡から日本を変えようと、From Fukuokaを合言葉に、頑張ってきました。

飯塚は間違なく変わっていましたが、同じ筑豊でも、僕の地元田川は何となくパア」としない。

今まで話しましたように僕自身が、仕事を街づくりも政治というものを身近で感じておりまして、やっぱり政治力って大きいよなあと実感していました。これからは国もそうですが、地方の役割が大きくなつてくる。それで政治への一步を踏み出そうと決断しました。

最初の選挙は、1年半をかけての選挙でしたが、13,508票という票をいただきながら、千票あまりの差で、負けてしまいました。やっぱり、失敗からの始まりでいました。やつぱり、失敗からの始まりでした。次の選挙まで4年かけて、通算5年半をかけて、議員になつたわけであります。

企業時代も多くの人たちを巻き込んで仕事をしてきましたが、選挙は仕事の比じやありませんでした。家族や親せき、地域住民の皆さんをはじめ、行政、企業、あらゆる団体、すべての人たちを巻き込んでの戦



水平線上に突起をつくれ ～私の嶽南魂～

いでした。本当に大変な職業についたなあと思います。

それだけに、県政はもとより、国や地元田川のこと、あらゆる分野・様々な年齢層、ありとあらゆることに関係しておりますし、当然責任も重なります。ですから、常にアンテナを高く、勉強をしなければなりませんし、その分、とてもやりがいのある仕事だと思います。

(福岡県議会の様子)

福岡県議会の様子は、こんな感じです。県議会議員は86名です。本議会や常任委員会・特別委員会や様々な議員連盟があります。本会議の代表質問で、中高一貫教育の問題に対しても、田川高校にも触れましたので、ちょっと聞いて頂ければと思います。

(県議会)

ふるさとへの子供たちの熱い思いが地域の将来を担つていきますので、中高一貫校の設置について要望いたします。私の母校県立田川高等学校には、水平線上に突起をつくれという校訓があります。現役生、卒業生はこの校訓を心に刻み、それぞれの分野で第一人者になれるように努力を積み重ねながら可能性にチャレンジし、各界、各分野で活躍しております。昭和五十五年、私が三年生のときには夏の甲子園をかけ豊決戦、川筋決戦と言わされた宿敵嘉穂高校との決勝戦に勝ち、甲子園初出場を果たしました。身近に競争相手がいることで、実

力を最大限発揮でき、それが母校、そして郷土に対する自信と誇りになりました。学力の面でも鞍手高校、嘉穂高校、田川高校は、三地区模試というテストで競い合っていました。ただ、よきライバル校ではありましたが同じ筑豊でも筑前の国、豊前の人という歴史もあり、言葉も風土も伝統文化も違います。通学圏や生活圏が広域になつたからという理由で筑豊に一つ中高一貫校を設置すると論じるのは、いかがなものかと思います。分権型社会の構築に向けて地元で子供たちを育てる重要性は極めて高く、中学・高校の青春時代というものは郷土に対しての自信と誇りを持てる貴重な時期だとも思います。地方が再生するには人しかいません。将来に向けて十三学区ごとの中高一貫校の設置を強く要望いたします。

す。

これから、世の中大きく変わつてきます。本当にいろいろな事がおこっています。政治や経済も、そして社会そのものが大きな節目の時期になつていてるんじゃないかなと思います。後世の歴史家は今の時代を何と言ふんでしょうか?私はきっと戦国時代と明治維新が一緒になつたような、そんな100年に1度、1000年に1度あるかないかのような激動の時代だったと言うんじやないかと思います。そんな激動の時代に今

生きていますか?それとも自分から道を切り開いていきますか?試練から逃げる人、どんな環境にもなつてもくじけずに立ち向かう人、これから皆さんは、自分に問われる瞬間が必ずやってくると思います。今までの社会は誰かが切り開いた道を後から歩んで行けばよかつたのかもしれません。でもこれからは、道なき道を進まなければと思います。若い皆さん方には、なつた一度の人生ですから思いつき挑戦して頂きたいと思います。

皆さんには、夢があります。希望があります。何よりも若さがあるんです。大きな可能性を秘めております。大事な事は、倒れないことじゃありません。倒れても立ち上がる事です。立ち上がる勇気を持つ事だと思います。

最後に、守破離という言葉を皆さんにお伝えしたいと思います。これは千利休・お茶の世界の言葉ですが、「規矩作法、守りつくして破るとも離るるとしても元を離るな」と言います。規矩とは耳で聞くと言ふ事じや師匠の教える通り、基礎基本をしつかり学び守りなさい。ただ、どこかの時点で、一度殻を破つて、自分自身のオリジナリティを創るために離れなさい。でも最初に教えてもらった基本は忘れちゃダメですよという意味です。

皆さんは、デイズニーランドに行つたことがありますか?東京デイズニーランド



おかえり! 母校に凱旋

水平線上に突起をつくれ ～私の嶽南魂～

は、4月15日で開業30周年を迎えるました。テーマパークとしては、国内の4割のシェアとして独走が続いています。好調の理由は、リピータの多さとファミリー層を重視していることです。その時の子供たちが大人になつてからの来園にもつなげているところです。そのため、ディズニーランドは常に変化し続いているんです。常に新しい感動を与えていたいんです。ディズニーランドには「夢と感動を与える」という理念があります。

こんな話があります。ある時、ディズニーランドに若い夫婦がきました。その若い夫婦は、レストランで食事をする時に、お子様ランチをウェイターの青年に注文したそうです。ディズニーランドのマニュアルでは、「お子様ランチは9歳以下のお子様用ですし、大人の方には少し物足りないかと思われますので・・・」と言つて断るそうです。でも、そのウェイターの青年は、マニュアルを逸脱して、「どなたがお食べになられるのですか?」そう聞いたそです。若い夫婦の女性が、「実は、私どもにはなかなか子供に恵まれませんでした。そして、やつとの思いで子供を授かつたのですが、その子供は病弱で1才を待たずに亡くなってしまいました。今日がその子供の一周年忌なんです。」そう話したそうです。青年は、その若い夫婦を家族席に案内し、しばらくお待ち下さいと言つて、子供用の

椅子を用意してお子様ランチを3つ運んできました。そして、どうぞ、ご家族でごゆつくりお召し上がり下さいと言つたそうあります。若い夫婦は涙を流しながら、そのお子様ランチを食べました。
後からその夫婦から手紙が来て、「私はディズニーランドでみんなに感動することは思いませんでした。でも、もう私たちは泣きません。この子の弟か妹をきっと連れていきたいと思います。」そう書いてあつたそうであります。

マニュアルを逸脱した青年は、とがめられることもなく、今でもディズニーランドでは絶賛されているそうです。

何でも約定規則ではなく、マニュアルを超えたところに感動があるんです。

私は、こんな夢と感動を与える地域に田川もきっとなると思います。情報化社会、なさけに報いる社会と書きます。田川にもつとも相応しい社会だと思っています。ここにいる、若い皆さんが、21世紀の新しい日本を是非創つて下さい。そして、生まれ育ったこの田川に、いつの日か必ず恩返しをして下さい。

嶽南魂を持つている皆さんだからこそ、様々な試練を乗り越えて、きっと実現できると信じております。

前途有望な若い皆さんに心からエールを送ると共に、福岡県立田川高等学校のさらなる発展を祈念申し上げまして、私の講演を終わります。

御清聴ありがとうございました。

こうざき さとし 聰

政治を志し、何をするのか！

夢と感動を与える地域へ

情に報いる21世紀の地域を是非一緒に創っていきましょう

守破離

“たがわ”の夢と将来を！

皆さんの夢が実現できるのが私の夢です！



<http://youtu.be/cEJR523dZVY>



平成25年度岳陽同窓会 記念講演会感想文

M・Tさん

私は今日、神崎聰さんのお話を聞いて、今、社会で活躍していらっしゃる方にも、多くの苦労や失敗・挫折があつたんだなあと思いました。最初に見たプレゼンでは、神崎さんは大変な仕事柄にあつという間に就いていたことが分かりました。そして、様々な高い壁を乗り越え、今の福岡県議会議員という位置について多くの活躍をされていて、本当にすごいなあと思いました。まさに、「水平線上に突起をつくれ」という校訓にふさわしい人生を送られているなあと思い、私にとってもよい刺激になりました。また、質疑応答の場での「人生とは何か」という質問の回答の中に、「人生という漢字は、“人が生まれる”“人が生きる”“人を生かす”“人を生む”という意味を持ちます。」と言って、本当にその通りだなあと思いました。今まで、“人生”という漢字の意味をそれほど考えたこともなかつたので、とても印象に残った言葉でした。私は今日の神崎さんのお話を忘れずに、これから学校生活を大事にしていきたいと思いました。

E・Kさん

私は、神崎さんの演題を見たとき、全くどんなお話をしてくださいのか、分かりませんでした。神崎さんの講演を聞いていくうちに、「水平線上に突起をつくれ」の意味がよく分かつたような気がしました。この校訓の意味は知っていましたが、私の中では漠然としていました。神崎さんの議員として行なってきたことを聞いてみると、神崎さんの突起ができるいくようで楽しかったです。また、責任のある仕事の大変さも分かりました。今回の講演では、神崎さんがおっしゃっていた、「夢をもつ」という言葉と「若いから何でもできる」という言葉が印象に残っています。私もこれから進路を決めていかなくてはならないので、大学合格に向けてがんばっていきたいと思います。これが、私の突起をつくる第一歩になつたらいいなと考えています。

Y・Iさん

今回、神崎聰さんのお話を聞いて、人のつきあい方、接し方について、改めて感じられるものがありました。ディズニーランドの話が特に印象的で、若い夫婦が1歳の子どもを亡くして、その一周忌にお子様ランチを食べに来た時、本当は9歳以下しか頼むことができないのに、そのウェイターさんは親切に家族で座ることができる席に案内して、子供用のイ

スを出して、3人前のお子様ランチを出した行動がとても思いやりがあると思いました。このように人と人をつなげたり、心を暖かくすることが私にもできればもっと人といい関係がもてると思いました。また、日本の政治をおこなっていく上で、神崎さんは私たちのことや田川のこと、福岡のことについてとても熱心に考えてもらっているんだなあと思い、とても嬉しかったと同時に、本当に地元を愛しているのだなあと思いました。「人生」の意味もすばらしかったです。今日は、講演をしてくださってありがとうございました。

M・Sさん

人生とは、転機の連続で何が起こるか本当に分からないなどいました。また、どんなに大きな壁にぶつかっても諦めずに立ち向かっていくことの大切さも感じました。神崎さんの講演を聞いて印象に残った言葉があります。それは、「夢に向かって行くほど失敗は大きくなる」という言葉です。これから私はまず夢に向けて第一歩である大学受験があります。厳しい戦いになってくると思うけど、「自分が絶対に行きたい」という強い気持ちを持たないと負けてしまうと思います。失敗してもそれは次へのステップと思って、どんなことでも一生懸命に取り組んでいきたいです。

Y・Nさん

今日の神崎さんの講演は、今までにないような感じでした。まず、神崎さんが議員になるまでを、分かりやすくちょっと笑いを含めた感じで紹介してくれました。サプライズでの麻生さんのビデオには驚きました。内容として、誰にだって挫折はあるけれど、それから立ち直ることが大切であるということが心に響きました。神崎さんも、たくさんの挫折を経験した結果、今の自分があるということでした。それから、目標をもつことが大切だとお話を下さいました。何事においても努力次第だと。今日は、たくさんの大切なことを教えてもらいました。私も、将来、水平線上に突起をつくれるような人になりたいと思いました。

おかえり! 母校に凱旋



水平線上に突起をつくわ!

本当に想ってくれて
ありがとう!

演題

「水平線上に突起をつくわ!」

演者
福岡県立高田高等学校
生徒会

演題

3

演者

3

演題

おかれり! 母校に凱旋

